

健康 よもやま話



心と体にアドバイス

医師としてベストを尽くす

1月、一都府県に緊急事態宣言が発令され、2月上旬にやつと新型コロナウイルス感染者数がピークアウトする気配が出てきました。これから暖かくなり、ウイルスの活動性が低下すれば、さらに感染者は減少すると考えられます。また2月下旬から、わが国でもファイザー社の核酸(mRNA)ワクチン接種が開始されることも、一つの光明と考えられます。

ただ核酸ワクチンは人類に初めて投与されるわけで、驚くべき短期間で一気に開発された経緯もあり、流行規模が欧米と桁外れに異なる日本における有効性と安全性、すなわち便益とリスクについて国民に丁寧な説明がなされるべきと考えます。

ウィズ・コロナ時代は、こ

のウイルスが単なる風邪のウイルスになつてしまふまで続きます。会う人は皆マスク、テレビも新聞もコロナ、人と話せばコロナの話題と、「コロナ疲れ」で辟易している人も多いでしょう。皆さんの気持ちになりがちなこのごろです。私事ですが心温まるお話をしたいと思います。

昨年12月半ば、一通のお手紙を頂戴しました。私が若かりし頃にC病院で診察した患者さまからの手紙でした。文面によるとその患者さま(以下Aさん)のご主人が「ビジネス情報」で私の記事を読み、「あの時の先生ではないか」と気付いてAさんに見せられ、ぜひ感謝の気持ちを私に伝えたいと、わざわざお手紙をくださったのです。

当時、Aさんはうら若き小学校の先生でしたが、病気の

影響もあつたのでしよう、とてもおとなしく神経質で、病気に對する不安感が強い人という印象でした。あまり覚えていないのですが、お手紙では不安から呼吸過多になる「過換気症候群」で何回も急患で受診され、私が対応させていたのだとのことでした。

診断は「PIE症候群」。これは肺に好酸球という白血球が入り込んで起きる病気で、何らかの物質に對するアレルギーに起因することが多いといわれています。Aさんが何回も入院されるうちに医学も進歩し、アレルギーの原因薬剤を同定できる「DLST」という検査ができるようになったり、結局、ある抗炎症剤が原因と判明しました。

その後、その薬剤を避けることで健康体になり、小学校も立派に勤め上げられました。

幸せな結婚をして、二人の息子さんにも恵まれたそうです。

私が感激したのは、駆け出しの内科医であつた未熟な私が深く考えずに発した一言一句を、しっかりと覚えていてくださったことです。私のなぐり書きのメモまで取つてくださつており、感激でした。「信頼してくださる方には、その期待に応えるべくベストを尽くす」という私の信条が間違つていなかったことを確認でき、うれしく感じました。

また患者さまに對する医師の一言の重みについても、改めて考えさせられました。Aさんが婚約者であつた今のご主人を連れて来られて、「病気の説明をしてほしい」と言われた時のプレッシャー(うそは言えないが、破談になったらどうしよう)を改めて思い出した次第です(汗)。



公益財団法人中国労働衛生協会
理事長

宮田 明

1974年岡山大学医学部卒。医学博士。公立学校共済組合中国中央病院血液内科部長・副院長、尾道市立市民病院院長などを経て2015年より現職。日本血液学会専門医指導医、日本禁煙学会認定専門医など。現在は健康診断、保健指導・健康教育、社会貢献事業などを行う公益財団法人の理事長。座右の銘は「待てば海路の日和あり」「降りやまない雨はない」。

定期健康診断・生活習慣病予防健診・人間ドック・特定健康診査・各種がん検診

退職後の健康管理に げんきサポートクラブ 会員募集中



公益財団法人
中国労働衛生協会
福山市引野町5丁目14-2
TEL:084-941-8211

健康情報配信中!
「健康経営」支援中!
WEBから問合せも可能です!
URL: <http://www.churou.or.jp>

公式マスコットキャラクター
ちゅうろうくん

